

プラントメンテナンスショー出展報告

1. はじめに

当社は、「見える・変わる・つながる」を出展コンセプト（図1）に、IoTソリューションを活用したプラントエンジニアリングを提案するべく、2019年7月24日（水）から7月26日（金）の3日間、東京ビッグサイト（東京国際展示場）で開催された第43回プラントメンテナンスショーに出展した。

プラントメンテナンスショーへの出展企業は170社で、同時に開催された他の展示を含めたメンテナンス・レジリエンスTOKYO 2019全体としては564社となり、来場者数は、3日間で516名／45,199名（当社／全体）であった。



図1 コンセプトロゴ

ブースに来場して頂いたお客様は、化学、製鉄をはじめとする大手プラントオーナー、更にはエンジニアリング会社や建設やメンテナンスの会社など様々であった。

2. 出展コンセプト

出展コンセプトの「見える・変わる・つながる」は、将来コンセプト（図2）に記載のとおり、クラウドを中核として情報を集約することにより設計からメンテナンス、更には生産技術において今まで見えなかったものが見えるようになり、今までと仕事の手法が変わり、これらの情報が新たな価値につながるということを表現している。

当社が変わることによって、提供できる価値が変わり、お客様とのWIN-WINの関係が構築できるものと考えている。

3. 主な展示内容

今回は、BIMプラントエンジニアリング、電流情報量診断システムT-MCMA、生産技術 ICTについては個別に展示し、従来からの建設やメンテナンスを集約したエンジニアリングメニューの中から建設工事のエンジニアリングフローと保全工事のエンジニアリングフローをブースの壁に

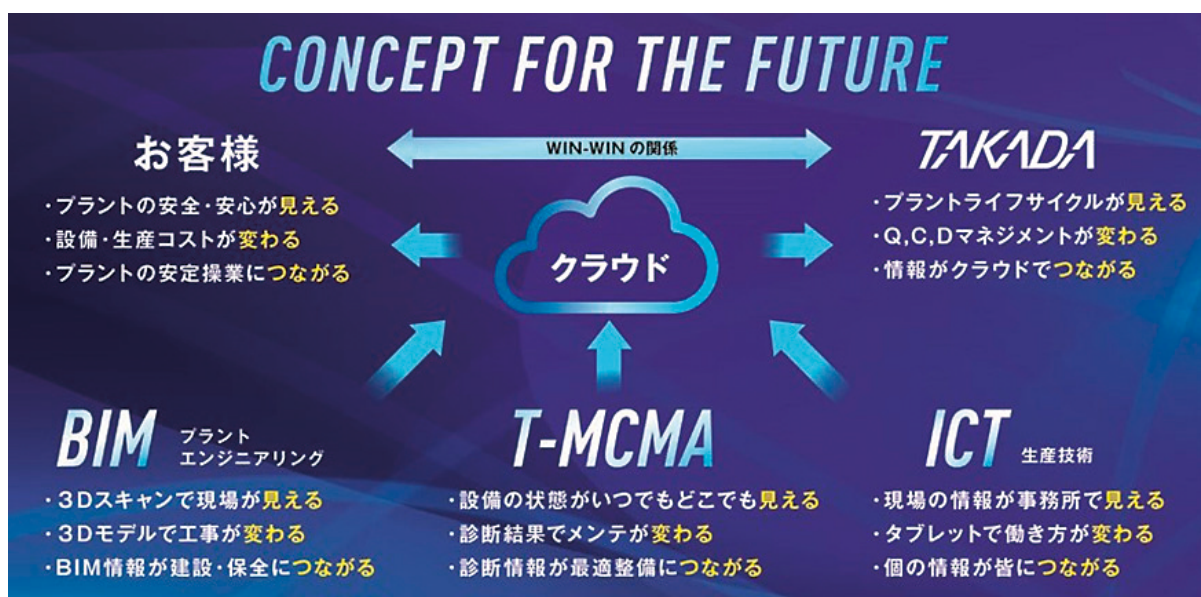


図2 将来コンセプト



図3 ブース内部の様子



図4 プレゼンテーションの様子

掲出して説明した（図3）。また、当社のキーテクノロジーである溶接については、シート式バックシールド治具の実演と合わせ、新規開発案件を中心にパネル展示した。

3.1 BIMプラントエンジニアリング

BIMは、ビルディング・インフォメーション・モデリングの頭文字をとったものであり、土木・建築を中心に導入されている。これは3次元設計を中心としたモデルに建設、資材やそれに係わる情報を集約させることにより全体の管理を行うものであるが、今回の主要展示内容としてプレゼンテーションも行った（図4）。

BIMプラントエンジニアリングの詳細については、別途本技報の詳細記事にて紹介する。

3.2 電流情報量診断システム T-MCMA

電流情報量診断システムについては、既に様々な展示会で好評を頂いているが、今回はクラウドを利用した新たな診断システム「TM-CLOUD」として紹介した。

TM-CLOUDの詳細については、別途本技報の詳細記事にて紹介する。

3.3 生産技術ICT

近年の業務改善・働き方改革といった中で、建設や保全の現場にタブレットを導入してきた（図5）。

お客様には、導入したアプリとその導入による業務改善内容について説明した。その中でも、当社が開発に参加した現場コミュニケーション支援アプリ「AQuick（エークイック）」については、動画も交えて紹介した。



図5 現場へのタブレット導入イメージ

表1 お客様の声（一部抜粋）

展示内容	お客様の声
BIMプラントエンジニアリング	・古い設備をスキャンして図面化したい
電流情報量診断システム T-MCMA	・設備を停止せず、異常が知りたい ・アナログ的な診断から脱却したい
生産技術ICT	・現場へのタブレットの導入を検討中 ・アプリや事例を知りたい
溶接	・ぜひ、シート式バックシールド治具を使いたい

4. おわりに

今回のプラントメンテナンスショーでは、従来の技術紹介を行うだけでなく、将来的な当社の技術的取り組みについてご提案させて頂いた。その中で、お客様が抱えられて

いる課題や要望を直接伺うことができ、大変貴重な機会となった（表1）。

当社の技術がお客様の課題解決のお役に立てるよう、またご要望にお応えできるように今後も継続して、技術開発に取り組むとともに、挑戦し続けたい。

大久保 利哉（技術本部 企画開発部）